

## 第2回諫早市特別職報酬等審議会

1 日 時 令和2年8月24日（月）午後3時～

2 場 所 諫早市役所8階 8-1会議室

3 出席者 委員 7名  
入江良美委員  
大久保てるひ委員  
黒田隆雄委員  
古賀文朗委員  
西村伊知恵委員  
眞壁正二郎委員  
山口 実委員

欠席者 委員 1名  
宮崎大輔委員

事務局 5名

### 4 会議次第

#### 特別職報酬等審議会

- 1 開会
- 2 議事
  - (1) 議事録署名人指名
  - (2) 諮問事項審議
- 3 その他
- 4 閉会

### 5 審議内容

- (1) 会長が議事録署名人に入江委員を指名
- (2) 審議事項

#### ①【委員の意見・質問及び事務局の説明・回答】

- ・ 今回の報酬改定の検討にあたり、新型コロナウイルス感染症の影響について、事務局はどう考えているのか。  
⇒ 新型コロナウイルス感染症による影響については、市議会議員だけではなく、市長、副市長、教育長を含めた特別職全体に関

わることであると考えている。従って新型コロナウイルス感染症による報酬への影響については、今回の諮問とは別に特別職全体の話として審議をいただくものと考えている。

- 本市の市議会議員の報酬は、県内を見たときに、同規模の市と比べても、決して高くはない。議員のなり手が少なくなっている状況で、現在の市議会議員は平均年齢が高く、若い人がなかなかいない。今後諫早市をますます発展させるためには、ある程度の出費は仕方ないのではないか。資料をみても、決して諫早市の議員報酬は高くない。今後それを踏まえた形で議論をし、平均的な数値を出し、議員定数も減る中で、一議員の負担も大きくなっていくことから、できれば見直すべきではないか。
- 資料から人口に比較して報酬が少ないと感じるが、議員定数を減らしたからと言って報酬をあげるというのは、市民が理解できるかどうか。新型コロナウイルス感染症のこともある。
- 定員を削減したことは評価している。今後は、議員の政策立案の能力の強化を図っていただいて、議員の資質や議員活動における組織力をあげてほしい。議員定数を削減したことも含めて、方向性としては上げていくべき。コロナ禍のなかで、市民感情としては反対する意見もあるかもしれないが、市民が、コロナが落ち着いたときに議員に何を求めていくのか、大きな流れを考えると、報酬は上げていった方がよい。
- 定員が4名減ということで、少数になる。第1回の審議会の時点では、上げるべきだろうと思っていたが、コロナ禍のなかで、景気がかなり落ち込んでいる。また税金等もおそらく減ってくる。そうなると、議員定員が減ったことで総額としては変わらないあるいは、少なくなるかもしれないが、市民としては、定員が減ったことは関係ない。議員がこういう時代に自分たちの報酬だけを増やすのかという感覚になると思う。将来的には増額する必要があるが、継続審議として取り扱った方がいいのではないか。
- 議員のなり手が増えてくると、議員報酬は別問題。議員になろうという人が少なくなってきたのが一番の問題。市町村合併

したが、市が身近になったというよりも遠くなった感じがしている。合併前の各市町でも議員は十数名いて、立候補者もかなりいた。それは行政が身近であったからだろうと思う。立候補者を増やすには、お金だけではない。市民が身近に感じられるような取り組みを行わないと、立候補する人が少なくなる。逆に、議員定数を減らすのではなく、増やして、報酬も極端な話、減らしていけば、身近になっていくのではないか。

- ・ 諫早市を盛り上げていく意味で、議員が頑張ってくれることは非常に大事。市民目線で物事をとらえて行動できる人材をどうやって確保していくのか、また、それだけの活動に見合う報酬なのかというところは大きな論点として考えていかなければならないと思う。比較表を見ると、諫早市の報酬は決して高くはない。程度は分からないが、報酬を少し引き上げる必要があるのではないか。新型コロナウイルス感染症の影響でタイミングがどうかという意見もあるが、どのタイミングだったら、審議会として判断できるのか見極めは非常に難しい。同じような市と比べ、議員報酬がそんなに高くないと考えたとき、見直すタイミングにきているのではないかと思う。
- ・ 今回引き上げを行った場合、次の選挙から実施ということでのいか。  
⇒ 答申項目として実施時期についても答申していただくことになり、例えば、令和3年4月実施の一般選挙後からなどという形で、本審議会において決めていただきたいと考えている。
- ・ 新型コロナウイルス感染症がどのくらいで落ち着くか、景気がどのくらいで回復するか。新型コロナウイルス感染症そのものが落ち着いたら、ある程度景気も戻ってくるだろうと思うが、その前に報酬を引き上げることにっては違和感がある。新型コロナウイルス感染症は予想では1年2年続く。ワクチンが出来れば経済活動自体はできるようになると思う。
- ・ 報酬を引き上げるのは仕方ないというのもわかるが、しかし、今の状況、例えば来年の選挙の時の経済の状況がどうなっているのかも大事。飲食業を中心に、ほとんどの方が、日々の生活もまま

ならない状況の中で、報酬を引き上げるのは市民感情としてどうか。新型コロナウイルス感染症が収束した後か、経済が元に戻った後というのを条件にするというのであれば理解できる。

- ・ 報酬の引き上げは次の選挙の後でもいいと思う。上げざるを得ないという方向性だけを決め、引き上げの時期については、先送りということかどうか。

- ・ 報酬を引き上げるのか引き上げないのか、引き上げるならどのくらいか。引き上げないならその理由を答申していくということになると思う。新型コロナウイルス感染症の話がでており、やはり市民生活と直結していることなので、コロナ禍が一旦落ち着いたら、また改めて議員報酬について引き上げる方向で検討するという内容の答申は可能なのか。

⇒ 付帯意見を付しての答申は、他の自治体で例があり、新型コロナウイルスが収束したときにという付帯意見を付したうえで、議員報酬の水準としてこれくらいが妥当ではないかという答申をいただくということは可能ではないのかと思う。

- ・ 新型コロナウイルス感染症がすべてに影響しているわけだが、審議会の答申としてはある程度の形には持っていきたいと思っている。ここで、いつ上げるかまでは難しい。引き上げるのを次の市議会議員選挙後の4月にこだわらなくてもいいのではないか。

- ・ 報酬の引き上げと定数削減は関連しないということによいか。

⇒ 報酬の引き上げと定数削減については、直接関連しているものではないとのことである。

- ・ 報酬と定数削減をリンクさせると、定数を増やしたときに報酬を減らすのかということになる。

- ・ 新型コロナウイルス感染症の問題がなければ、ある程度進むかもしれないが、こういう状況になれば、市民感情は大事なことだと考える。報酬を引き上げるにしても時間がかかる。議案の上程は9月議会ではなくて、12月議会でも3月議会でもいいのではないかと考えるがどうか。

⇒ 仮に引き上げることとなった場合、議案上程が9月で、実施は次の選挙後である4月からとなる。この実施までの期間というのは、立候補を検討するにあたって周知期間をとりたいというのが趣旨である。

- ・ 議員は現状をどう考えているのか。そういう話は聞こえてこないのか。

⇒ 新型コロナウイルス感染症の関係で審議会の開催を見合わせた時期に、議会のご意見も伺ったが、最終的には審議会の答申を頂く方向で調整を図ってきたところ。審議会では、通常であれば、議員報酬が適正な水準であるのかを審議していただきますが、今回もできれば新型コロナウイルス感染症がなかった場合の適正な報酬の水準を審議していただきたいと考えている。

- ・ 議員報酬を決めるのに、世の中の景気等を見捨て、それだけで本当にやっていけるのか。耐えていけるのか。新型コロナウイルス感染症の前の状態だったら、ほかのところと比べて、同じような都市と比べても報酬が低くなっており、20数年そのままだったことを考えたときには、報酬を引き上げざるを得ないだろうとは考えるが、新型コロナウイルス感染症の問題を切り離して考えることには違和感がある。新型コロナウイルス感染症の影響で景気が落ち込んでいる。その中で報酬を引き上げる、ほかの都市と比べて安いから、議員に頑張ってもらうために上げましょうかというのは、少し違和感がある。

- ・ 議員報酬を引き上げないということではない。実施時期が気になるということである。

- ・ いずれにしても、すぐには決められないだろうと思う。結論がでない場合などで、9月議会に上程しないということになれば、どういうスケジュールが考えられるのか。

⇒ 定例の議会としては、9月の後は12月議会、3月議会があるが、議員のなり手不足を解消する一つの手段というところでの周知期間になるので、条例改正するタイミングについて、9月議会を逃した場合、12月議会または3月議会で果たして大丈夫なのかという判断は難しい。

- ・ 新型コロナウイルス感染症の問題は、市民全体の問題だから、それを置いて決めてしまうのはできないだろうという気はしている。今、早く決める必要はないだろう。
- ・ 据え置きという答申をすることになるだろうと思う。答申としては、どうするかを明確にする必要がある。
- ・ 今回は、タイミング的に報酬を引き上げませんというのが答申になるかと思う。ただ、付帯意見として、新型コロナウイルス感染症が落ち着いたときには、改めて審議する必要があるということを書く。その時には、審議会を改めて開いて上げるかどうかを決めることになるのではないか。
- ・ コロナ禍という状況を踏まえて、引き上げ率を低く抑えるという答申もあり得る。据え置きということではなくて、先々引き上げていかなければという思いがあるなら、3%とか5%とかでも引き上げておくという形での答申もあり得るのではか。
- ・ 引き上げることはやむを得ないと思うが、決定するのは今ではないと思う。一番悩ましい時期である。

### (3) 意見集約

#### ①【会長による意見集約】

議員報酬を引き上げるという方向性は大事にしながら、その決定は、コロナ禍の状況を見て、今ではなく、もっと後のほうがいいという意見が多いようであり、次回までに事務局に答申案の検討をお願いすることでよいか。

#### ②【委員の意見】

異議なし